

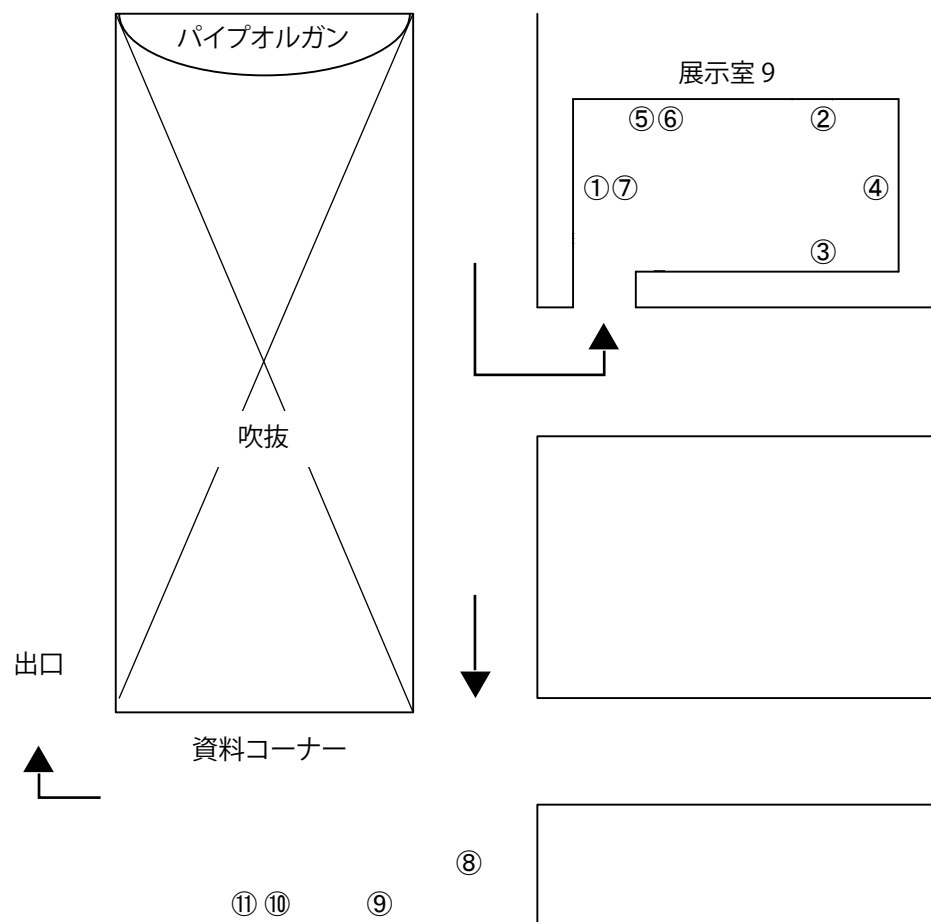
磯崎新 | 水戸芸術館縁起

Arata Isozaki | Derivation of Art Tower Mito

2019.11.16 [sat] - 2020.5.6 [wed]

主催：公益財団法人水戸市芸術振興財団 企画：磯崎新アトリエ／水戸芸術館

協力：MISA SHIN GALLERY



日本を代表する建築家・磯崎新は、米寿を迎えた2019年、建築界のノーベル賞と目されるプリツカー賞を受賞し大きな話題となりました。磯崎にとって節目となるこの時期に、自ら設計を手掛けた美術館において展開していく『縁起』展。ハラ ミュージアム アークから出発したそのユニークな試みの第二弾として開催される本展では、水戸芸術館のコンサートホール、劇場、ギャラリーの発想の原点を垣間見る作品を、タワーの構造理論やコンサートホールの音響設計と併せてご紹介いたします。

①「構」 2019
APパネル、アクリル
1030×1456×15mm

水戸芸術館の構想時に着想の起源となった世界各地の建築との関連性を示した作品。

②「震」 2019
APパネル、アクリル
1030×1456×15mm

構造家・木村俊彦とともに設計した水戸芸術館のタワー。その構造的根幹を担うジョイント部の原寸大断面図。黒い箇所が断面

③「響」 2019
APパネル、アクリル
1030×1456×15mm

永田音響設計とともに設計したコンサートホール。ホール内で響く音の方向を示したダイアグラム。黒い点から延びる線の方向が水平方向を示し、長さが垂直方向を表している。

④「移」 2019
光硬化樹脂
690 x 160 x 130mm

水戸芸術館の現代美術ギャラリーを3Dプリンタで模型化した作品。群馬県のハラ ミュージアム アークでも制作された連作。

映像
⑤「聲」 2019
Hiroshima、孵化過程、
Lecture on Nothing
Quran Oasis
30min

1968年の磯崎作品「ふたたび廃墟になったヒロシマ」というドローイング作品の上に、3つのフッター（ダースレイダーによる磯崎の詩「孵化過程」の朗読、ロバート・ウィルソンが演じたジョン・ケージの「Lecture on Nothing」、サウジアラビアのThe Noble Quran Oasisのコンペに磯崎が提出した映像）を重ねた映像作品。

⑥「間」 2019
予告、間、竜安寺
30min

1978年にパリ装飾美術館で開かれたのち、欧米5か所を巡回した「間」—日本の時空間展の映像と、ニューヨークのメトロポリタン美術館の委嘱で、映像作家の飯村隆彦と音楽家の小杉武久と磯崎が共同制作した映像作品「間：竜安寺石庭の時／空間」。

図書
⑦磯崎新＋篠山紀信
「建築行脚」 1980-1992

篠山紀信と1980年から1992年にかけて世界各地の建築を巡って制作された。

資料コーナー
⑧水戸芸術館模型

⑨磯崎新 著作・作品集

⑩大分市美術館 特別展
[磯崎新の謎]展 記録映像
2019
14min

⑪水戸芸術館タワー建設時
記録映像
30min